



本田技研工業株式会社 取締役
安全運転普及本部 本部長

曾田 浩

日頃はHondaの安全運転普及活動に多大なるご理解、ご支援を賜り、誠にありがとうございます。おかげさまで今年もさまざまな分野で安全運転普及活動を展開することができました。この場をお借りし、改めまして御礼申し上げます。

さて本年の交通事故死者数は、第8次交通安全基本5ヵ年計画の目標「5,500人以下」を達成した昨年をさらに下回るペースで着実に減少しております。これは交通安全に関わる官民はもとより、交通社会に参加する一人ひとりの努力の成果であり大変喜ばしいことと思います。

しかしながら、高齢者の事故死者比率の増加や自転車事故件数の全体に対する構成率増加など憂慮すべき状況は依然続いています。「事故のない道路交通において世界一安全な国」の実現をめざし、2009年年頭に政府より示された「10年後を目途に、さらに交通事故死亡者数を半減させる」という目標に向けて、高齢者や自転車事故対策などの重点課題への取り組みが不可欠と考えております。

これまでHondaは、人に焦点を当てた「手渡しの安全」という考えから、二輪・四輪・汎用製品の販売会社による啓発活動や全国8ヵ所の交通教育センターにおける参加体験型の実践教育活動を中心に展開してまいりました。さらに、交通安全対策の重点が高齢者や自転車対策に変化する中、「地域に根ざした活動の強化と充実」を図る

ため、昨年の熊本製作所に加え、今年は栃木・埼玉・浜松・鈴鹿の各製作所にも地区普及ブロックを設置しました。地区普及ブロックは、地域の警察、自治体、交通関係諸団体等の皆様と連携しながら、Hondaの交通安全ノウハウを地域の交通安全につなげる活動をスタートさせ、今年度はこれまでに3万人以上への普及を行うことができました。

また子どもから高齢者を対象に幅広く、自転車交通安全教育に役立てていただくため、来年初めには、「Honda自転車シミュレーター」を発売いたします。これまでの教育に加え、自転車乗用時の危険予測や気づきを促す新たな教育機器として自転車教育の可能性を広げることができると確信しております。

今後もHondaとしましてはすべての交通参加者の安全快適なモビリティの実現に向けハード、ソフトの両面から社会に寄与してまいりたいと存じます。交通安全普及活動におきましては、特に地域の皆様と一体となった交通安全活動の展開や先進的な機器やプログラムの提供により、情熱的で高い志を持った交通安全指導者の輪を広げ、安全意識の高い交通参加者を一人でも多く増やせるよう努力してまいりたいと思います。

最後に、皆様のますますのご健勝とご発展を祈念申し上げますと共に、私たちの活動への変わらぬご理解、ご協力の程お願い申し上げます。